

第592回 新潟放送番組審議会 議事録

審議番組

テレビ番組 「越後から吹く風 キーン先生の想いをのせて」



平成 25 年 11 月 28 日

BSN新潟放送

第592回新潟放送番組審議会

1. 開催日時 平成25年11月28日(木)午前11:00~

2. 開催場所 新潟放送本社 6F会議室

3. 委員の出席

委員側出席者(敬称略・順不同)

委員長	松川公敏	副委員長	相羽利子
委員	高井盛雄	委員	正道かほる
委員	古賀豊	委員	小島良子

委員側欠席者

委員	渡辺隆	委員	佐々木広介
委員	齋藤俊太郎	委員	行形貴子

放送事業者側出席者

社長	竹石松次	専務	梅津雅之
常務・編成局長	水田義雄	報道制作局長	五十嵐幹史
営業局長兼ラジオセンター長	齋藤和利		

説明員 報道制作局情報センター
プロデューサー 南加乃子

事務局

事務局長	小原弘志	(社長室長)
事務局員	増山由美子	(考査広報部長)

4. 議題

・審議番組

テレビ番組 「越後から吹く風 キーン先生の想いをのせて」
放送日時 10月26日(土)10:30~11:00

5. 議事の概要

~番組審議委員の主な意見・質問~

番組構成がしっかりしている。内容が濃く、とてもわかりやすい構成だった。番組の随所にキーン先生のおおらかな人柄が窺えるシーンがあり、最初から最後まで心穏やかに見ることができた。

古浄瑠璃が口伝で継承されるということについてももう少し説明がほしかった。盛りだくさんの内容をよくまとめていた。なぜ柏崎にドナルド・キーンセンターができたのかわからなかったが、番組を見て理解できた。

キーン先生がおっしゃった「今の日本の若者は古典を読まない。いつか日本文学を読むのは外国人ばかりになるのではないか」という話が印象的。センターの設立が、子どもたちが日本文学を好きになるきっかけになってくれればと思った。

キーン先生の言葉ひとつひとつが示唆に富んでいて、考えながら見たかったが、30分番組ではその時間がなかった。1時間番組にしたほうがよかったのではないか。過去の資料映像をうまく活用していた。キーン先生と新潟との関わりがよく描かれていた。

キーン先生によって日本文学の魅力が充分語られている。それを知ることは、日本人の自信につながるのではないかと感じた。

こういった硬派なドキュメンタリー番組をもっと多く制作してほしい。是非、若者に見てもらいたい。

～竹石社長から～

世界のドナルド・キーンさんを取材できるということは、放送局としてありがたいこと。今後も引き続き取材をさせていただきたい。

～南プロデューサーから～

貴重なご意見ありがとうございました。

キーン先生は、91歳でいらっしゃるがとても多忙な毎日を送られているため、取材に特別な時間はいただけず、講演などの度に何度も足を運んだ。周囲の人にやさしく接し、ウィットに富んだお話をされる方。その空気感が自然と映像に表れていたと思う。多くの功績があるキーン先生を番組でどのように描くか迷ったが、地道な取材で先生の素顔に触れることができた。現在、継続取材をさせていただいている。このようなご縁を今後にもつなげていきたい。